

交通Bulletin

2004年 別冊, No.7

発行日：平成17年1月28日
 発行：日本大学理工学部
 社会交通工学科教室
 ☎047-469-5239 (教室事務)
 発行責任者：星正明 (教室主任)
 編集担当：伊東 孝・長井裕美子・野水雅之
 制作：株式会社 テイクアイ

DEPARTMENT OF TRANSPORTATION ENGINEERING AND SOCIO-TECHNOLOGY · COLLEGE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY · NIHON UNIVERSITY

「社会交通工学科」に改名してからまる3年になります。今回、この「社会交通」の学科名にふさわしく、教員や研究室そして卒業生が「社会」で貢献している活動などに着目して、新聞や雑誌などで取材・紹介された談話や記事などをまとめてみました。『交通Bulletin別冊』は、これから毎年発行する予定です。

天野光一 教授

KOICHI AMANO

『橋梁新聞』

2003年10月21日

新聞

(第三種郵便物認可)

第826・827号

第826・827号

(第三種郵便物認可)

橋梁

環境に配慮した

地域毎形状、色彩に配慮を
 天野 景観は、都市部や山間部、海岸部など、それぞれの地域ごとに異なるべきです。また、歴史的な建造物や人工的な高層ビルなど、建築物によっても大きく左右されます。この中で、防護柵を含む道路構造物、周辺環境や、景観や法面などの道路構造物との関係性、統一性を確保する必要があります。自然環境に優れた公園などに道路が隣接する地域では、防護柵は特に連続して見えるため、形状・規模・色彩などへの配慮が特に必要です。

天野 安全性を考えると、カーブや下り勾配など、車両の運転上、車線がよが、変わったなサイン

天野 現在、防護柵は視認性確保のための白が用いられていますが、周囲の環境の中自ずから、調和していかない場合があります。また、白色は錆や汚れが目立ちやすいため、景観を損ねる可能性があります。

天野 景観の重要要素は、安全性を確保することです。景観の重要要素は、安全性を確保することです。景観の重要要素は、安全性を確保することです。

防護柵ガイドラインについて

天野 景観配慮 ならびに、防護柵の設置ガイドラインを決定するきっかけになりました。また、このガイドラインは、景観配慮だけでなく、安全性の確保も重要な要素です。



天野光一氏 (日本大学理工学部 社会交通工学科教授)

道路景観の重要な要素
 防護柵は、道路の路外へ、一方、景観的な要素が欠け、道路を妨げると大きな影響を及ぼす可能性があります。

天野 防護柵は、道路が景観の重要な要素です。景観の重要要素は、安全性を確保することです。

天野 ガイドラインの策定は、安全性を確保することです。景観の重要要素は、安全性を確保することです。

※注 「日本国民一人一人の資産としての国土」の考えから、国土が取るべき役割を担うため、景観の重要要素として、無電化推進計画の策定や「官民協働」の取組や「日本の道」の推進を促すなどの役割を担うことが期待されています。

(第3種郵便物認可) 新開定価 6ヶ月: 8,800円(消費税別) 1年: 16,500円(消費税別)

日刊建設工業新聞が提供する会員情報サイト
<http://www.kensetsu-it.com/>

- 過去記事検索
- 人事異動速報
- 発注落札情報
- 免状予定

ご購読者には無料メニューもあります。詳細はサイト案内をご覧ください。

オープンサイト <http://www.decn.co.jp/> の資料閲覧パス……4月は prop5ae

THE DAILY ENGIN



建



第1回「日本大学理学院社会交通工学部卒業設計展+デザイン研究室作品展」が5月5日〜7日まで、船橋日大前駅「シー・キャラード」千葉で開催される。同学科では全国に先駆けて、10年前から「伊澤岬デザイン」を掲げてきた。そのデザインを担ってきた伊澤岬氏(同学科教授)の「デザイン研究室」である伊澤岬氏は土木デザインの重要性を指摘するだけでなく、土木と建築の融合はもとより、さらには「価値」の創造を目指して、NPO活動にも積極的である。

大きな変革みせる
土木界
このところ、土木界が大きな変革を見せている。建築家の内藤廣氏が01年に東京大学土木系、正武氏は東京大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻、助教に就任して、今年、教授になった。就任を祝う会には、土木および建築界から錦々(きんげん)たる声援が寄せられた。その内藤氏を東大に招聘(こうへい)したのは、建築界から錦々(きんげん)たる声援が寄せられた。その内藤氏を東大に招聘(こうへい)したのは、建築界から錦々(きんげん)たる声援が寄せられた。

伊澤 岬氏
日本大学理工学部
社会交通工学学科教授

景観、デザイン、
土木史教える日大土木
伊澤岬(いざわ)氏は日本大学理学院(建築)海洋建築学科(海洋建築)として、理学院(社会交通工学)土木の分野で教える。伊澤岬(いざわ)氏は日本大学理学院(建築)海洋建築学科(海洋建築)として、理学院(社会交通工学)土木の分野で教える。

経済特区による
新たな都市再生へ
伊澤岬(いざわ)氏は日本大学理学院(建築)海洋建築学科(海洋建築)として、理学院(社会交通工学)土木の分野で教える。

区コンベニエンスな
展示会場は伊澤氏の設計した
のギャラリーである。
「作品のなかへ」(御茶の水)構想は従来の開発型都市再生ではなく、教育、医療特区による都市再生を目指すものです。単独の大学構想でなく、各大学が連携して新たな都市を創出する価値創造のモデル、それを構想改革に活かしていくという。

市民との合意形成、
地域とともに生きる大学
「建築も土木も昔の状況に履きかえりませぬ」

土木デザインの重要性アピールへ
5月5日から「卒業設計展+デザイン研究室展」

土木デザインの重要性アピールへ

5月5日から「卒業設計展+デザイン研究室展」

大まかには再生への価値観の転換です。意識転換しながら、仕組も必要ですが、地域に根付いた長い手法も必要です。土木建築の融合もその一つの「」その意味は、土木はこれからのスタートだといっている。市民が求めているのは、気持ちのいいインフラや環境、はつきりしています。また、これまでの仕事を委ねておられる土木の役割やデザインは、内藤さん、今の例が象徴的、土木の可能性がそこにある。新たなデザイン・キャンパスを創出して、冷たい産業を温かくし、みんなが元気になることではないか。

「その意味は、土木はこれからのスタートだといっている。市民が求めているのは、気持ちのいいインフラや環境、はつきりしています。また、これまでの仕事を委ねておられる土木の役割やデザインは、内藤さん、今の例が象徴的、土木の可能性がそこにある。新たなデザイン・キャンパスを創出して、冷たい産業を温かくし、みんなが元気になることではないか。」

【建設工業新聞】
2003年4月25日

BIG TALK

デザインの時代。



街づくりは、機能とデザインの両面から語りたい。



伊澤 岬 ● 元谷 外志雄



元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」

元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」



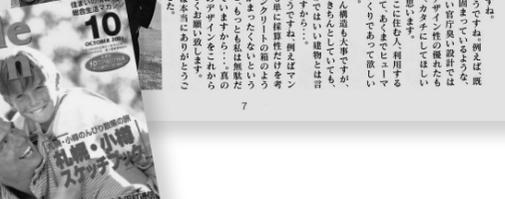
元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」



元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」



元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」



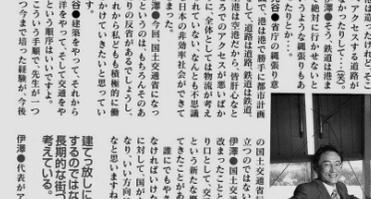
元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」

元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」

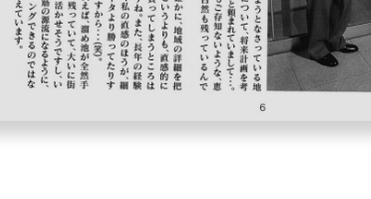
BIG TALK



元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」



元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」



元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」

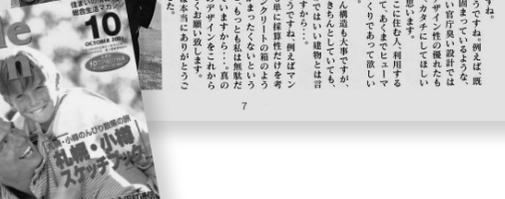
元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」



元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」



元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」



元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」

元谷●「デザインは、街づくりの両面から語りたい。機能とデザインの両面から語りたい。」

福田 敦助教授

ATSUSHI FUKUDA

Monthly The Safety Japan

2003年3月10日発行 (毎月1日10日発行) ●SJ360号

過去の交通問題への取り組みを アジア諸都市の交通問題に活かす

OPINION

私はこう考える



福田 敦 日本大学理工学部助教授

1959年、東京都生まれ。日本大学理工学部交通工学科卒業後、日本大学に籍を置きながら、東京大学工学部の中村英夫教授(国運輸政策研究所所長)の指導を受け、修士課程を修了。日大大学院理工学研究科交通土木工学の博士課程修了後、同理工学部助手を経て、アジア工科大学院助教授としてタイに派遣。2000年より現職。専門は交通計画、国際開発工学、交通プロジェクト評価、(財)国際交通安全学会会員。

福田さんが東南アジアの交通問題に関心を持ったのは大学院時代のこと。指導教授から一人のタイ留学生を紹介され、バンコクの土地利用と交通について共同研究したのがきっかけ。日本の博士課程卒業後、福田さんはタイのアジア工科大学に派遣された。肩書きはJICA(国際協力事業団)の長期専門家。福田さんは年間、交通経済学や交通プロジェクトの評価の分野で講義と研究指導にあたった。「これでいっしょに、アジアに足がはまりました」。

とを務めているうちに知り合いが増え、ODA(政府開発援助)関連の仕事をお手伝いする機会が増えた。**急速に発展するアジア諸国に日本は何かができるか**。開発途上国の交通問題に取り組みながら、福田さんは日本のODAのあり方について疑問を抱くようになった。ひとつは「アジアはものすごく遅れている」と考える日本人が多いこと。それは10年前に訪ねた人の感覚。アジアは猛スピードで変わっています。たまたま都市交通は、欧米では300年、日本では戦後50年かけて積み上げてきたものがアジアは、わずか20年。今やインフラ整備からITや環境までが、一気に同時進行しようとしています。日本では実用化に近づいたばかりの自動料金取集システムは、バンコクの首都高には50年かかって導入済みだ。このように急速に発展するアジアの国々に対し、日本は何かができるのか。2年前、福田さんは国土交通省の事業で、バンコク・タイの首都ダッカにエコトランスポートを導入するための調査研究に携わった。そのとき、「い

きなり日本の例を持ってこれても飛躍しては現実味がない。しろ、あなたいがバンコクでやってきた話を、現地在のタカカ、経済状況、人口、都市面積、インフラの敷設状況、60年代のバンコクと類似している。福田さんは、過去の開発援助の経験や成果の見直しが必要だ」とことを痛感したという。開発援助先進国でも呼べるタイやフィリピン、インドネシアでの取り組みは、すでにその段階に行っており、近隣諸国の事例の方が地味的にも心理的に受け入れやすいからである。**経験を活かした活動が実を結ぶ**

福田さんは、開発援助はその過程が大切とも言っている。福田さんは言う。昨年夏、信託機導入などのプロジェクトでチェンマイを訪れたときには、現地警察から「警察官の教育をしてほしい」と訴えられた。「いっせん機を改良して、違反者から罰金を取るようなやり方では、国民は交通ルールを守らないでしょう。取り締まりにあたる警察官、道路設備を作る役人の教育が求められている。民間や警察のOBの方など、日本から技術と知識を持った人材をもっと派遣してほしいと思います。交通安全の分野で、日本ができることはもっとある」と、福田さんは言う。昨年夏、信託機導入などのプロジェクトでチェンマイを訪れたときには、現地警察から「警察官の教育をしてほしい」と訴えられた。「いっせん機を改良して、違反者から罰金を取るようなやり方では、国民は交通ルールを守らないでしょう。取り締まりにあたる警察官、道路設備を作る役人の教育が求められている。民間や警察のOBの方など、日本から技術と知識を持った人材をもっと派遣してほしいと思います。交通安全の分野で、日本ができることはもっとある」と、福田さんは言う。

異業種で活躍した卒業生

2003年(平成15年)8月19日 火曜日 3版 2

世界を鼓動

全国へ歩き遍歴 ラーメン王が 研究所を設立

「高級と安さの二極化が進み、スープからめんまで、あらゆる時代に合わせたメニューが求められる。不況でも続くラーメンブーム。武内伸さん(43)は、全国を歩いた5700杯を超えて、福岡出身で豚骨が好きだった高校時代、東京で魚だしスープと縮れめん、の奥深さに衝撃を受けた。味覚を争うテレビのラーメン王選手権で優勝。95年に建設会社から新橋振ラーメン博物館に転身して、広報を担当。

21期生(昭和60年卒)の武内伸さん(川口研究室)は、「TVチャンピオン・ラーメン王選手権」(1992年)で優勝し、現在はラーメン総合研究所の所長を務めている。『ラーメン王国の歩き方』(光文社文庫)をはじめ、ラーメンに関する数多くの著書がある。

漫画の監修や講演が増え、5月にラーメン総合研究所を立ち上げた。何でもあの世界という雑多さが魅力だ。ラーメンの語り部を目指し、今年に400杯を食す。(野村雅俊)

『朝日新聞(夕刊)』
2003年8月19日

『Monthly The Safety Japan』
360号(2003年3月10日発行) p.5



『国づくりと研修』
第92号 SPRING
(2001年5月10日発行)

高田邦道 高田邦道 高田邦道

自転車を 都市の交通手段として 生かすためには



高田邦道 高田邦道 高田邦道

高田邦道 高田邦道 高田邦道

高田邦道 高田邦道 高田邦道

高田邦道 高田邦道 高田邦道

pp.6 ~ 11

宮田年耕 宮田年耕 宮田年耕

自転車を 都市の交通手段として 生かすためには



宮田年耕 宮田年耕 宮田年耕

宮田年耕 宮田年耕 宮田年耕

宮田年耕 宮田年耕 宮田年耕

宮田年耕 宮田年耕 宮田年耕

pp.12 ~ 17

海外の自転車事情 環境共生型都市 デビスにみる 自転車道計画

小早川 悟 高田 邦道

日本大学理工学部交通工学科

環境共生型都市デビスにみる自転車道計画

pp.26 ~ 29

交通計画と都市の交通手段

交通計画と都市の交通手段

交通計画と都市の交通手段

交通計画と都市の交通手段

pp.6 ~ 11

Putnam Creek Bicycle Crossing

Putnam Creek Bicycle Crossing

Putnam Creek Bicycle Crossing

